

科目名	英語教育方法論特講	担当者	イトウ 伊藤 ノリコ 典子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講義は、英語教授法に関連する理念・理論、および、関連学際分野の研究と英語教育実践を結びつけることを主たる目的とする。前期には、実際の英語教育活動に関連した、より情意的・経験的な事項を取り扱い、英語教授法の基礎知識の理解をめざす。後期には、英語教授法をより理論的・学際的なアプローチでとらえることで、英語教育法に関する多面的な知識を高めると共に、より柔軟に英語教育に対応できる方策を探求してもらいたい。		
到達目標	第一言語習得論・学習者論と第二言語習得論・学習者論を学習した後で、第二言語をどのように学習者に習得させて行くか、問題点をどのように解決して行くかは、個々に創意工夫してもらうためのものとする。コミュニケーション能力、第一言語の役割、読解力の評価、異文化理解、第二言語習得理論、第二言語教育等の知識・アイデア・問題を解決し、学習者の反応や置かれた立場をよく把握して、自分なりの解決法を導き出していくことを到達目標とする。		
学修方法	教材、参考文献を読み、自分の第一言語習得・学習と第二言語習得・学習を省みて、良い点、悪い点を模索する。どこをどの様に解決し、発展させて行けるかを捉えて、理想的な学習・習得方法は何かを学び、論証していく。		
スケジュール	5月～6月/ 9月～10月 教材、参考文献を読む 7月～8月/ 11月～12月 問題点を指摘し、自分なりの解決法を模索する 9月 / 1月 草稿から最終稿まで、修正、加筆、削除、編集等を行い、提出する		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	課題レポートを重視する。執筆にあたっては、草稿から最終稿まで、書き直し、編集、推敲と段階的に進めること。
	平常評価	0%	
履修者への要望	教材・文献をただ読んで、著者の言おうとしていることを一方的に取り入れるのではなく、個人個人で創意工夫し、独自のオリジナル教育法を確立すること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： J A C E T (大学英語教育学会) 教育問題研究会 教材名： 『新しい時代の英語科教育の基礎と実践—成長する英語教師を目指して』 (三修社, 2012年) ISBN:978-4-38-405682-2 2,600円+税</p> <p>本書は、日本の英語教育について述べられ、論証されている。第1部の理論編、そして第2部と第3部の実践編から構成されている。言語教育者が理論と実践を実証して、日本の言語教育を個々に丁寧に論証しているが、読者に、第一言語習得と第二言語習得論、学習者論を学習した後で、第二言語をどのように学習者に習得させて行く論じている。さらに、問題点をどのように解決して行くかは、個々に創意工夫してもらうためのものとしている。コミュニケーション能力、第一言語の役割、読解力の評価、異文化理解、第二言語習得理論、第二言語教育、つまり英語教育に携わる者の知識・アイディア・問題を提供している。</p>
参考図書	<p>木村松雄『英語科教育—小中高の連携』(学文社, 2011年) ISBN:978-4-76-202039-1 William Littlewood <i>Foreign and Second Language Learning</i> Cambridge University Press 1984 ISBN:978-0-52-127486-9 3,250円+税 (Paperback)</p>
履修上のポイント	<p>このテキストは、「英語教育の授業力の向上」を目指して理論立てて、順序よく論証し、実践指導を明示している。日本の応用言語学と言語教育の理論と実践を基盤に、英語教授法とコミュニケーション能力の解釈を中心に第2外国語習得とは一体何か、問題点は何か、利点や不利点等を展開させ、構築させていく。精読後、創意工夫を施し、個人個人の教授法と問題解決法を確立していく。</p>
レポート課題 1	<p>第1部の理論編序章から第5章まで読んで、これからの問題解決法と発展を理論的によく踏まえた上で、現在の状況と問題点等を理論的に展開させ、述べなさい。 留意点：著者の考え方を一方的に取り入れるのではなく、自分なりの解決法と今後の展開を理論的に考察すること。</p>
レポート課題 2	<p>第2部と第3部の実践編の第6章の音声と文字の指導から第19章の教育実習まで読んで、これからの問題解決法と発展をよく踏まえた上で、現在の状況と実践上の問題点等を述べなさい。 留意点：単に読後感ではなく、課題(1)同様に、自分なりの解決法と今後の展開を考察すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： パッツイ・M. ライトバウン、ニーナ・スパダ、白井恭弘(訳) 教材名： 『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』 (岩波書店 2014年) ISBN 978-40-0-005328-0 2,800円+税</p> <p>本書は、語学習得に関する研究書の定番である。外国語教育を学問的見地から掘り下げ、効果的な学び方・教え方を実証的に考えている。第一言語学習と第二言語学習の比較、学習者の個人差と第二言語習得の説明理論、学習環境の違いを取り上げたのち、これまでに提案されてきた6つの外国語教授法を検討し、論証を行っている。分析・解決・評価をおこなって行くのは、あくまでも教育に携わる読者自身なのである。種々の外国語教育とアプローチ法を学んだ後、読者の創意工夫により、新しい教育法を発見してもらいたい。</p>
参考図書	<p>Jack C. Richards and Theodore S. Rodgers <i>Approaches and Methods in Language Teaching, Third Edition</i> Cambridge University Press 2014 ISBN 978-1-107-67596-4 (paperback) Patsy M. Lightbown and Nina Spada <i>How Languages are learned fourth edition</i> Oxford University Press (原書) ISBN 978-0-19-454126-8 4,212円</p>
履修上のポイント	<p>本書は、第二言語習得論から種々の外国語教育法を明示し、論証している。しかし、これらはあくまでも例に過ぎず、自分の置かれた状況・環境に応じて、教えるにあたり創意工夫していくことが最大の課題である。また、参考図書も原書と外国語教授法とアプローチについて説明されているので、比較分析して、類似点、相違点を発見し、評価しながら、今後の教え方に反映させていくように努力を重ねていただきたい。この参考文献を読むことにより、自分独自の教授法が見出されることを望む。</p>
レポート課題 1	<p>序章と第1章の第一言語習得から第3章の第二言語学習の個人差までを読んで、学問的見地から掘り下げ、分析と評価を行い、21世紀の課題として述べなさい。 留意点：参考図書もよく読んで、基本教材同様に重視していき、自分なりの教育法を見出していくよう工夫すること。</p>
レポート課題 2	<p>第4章の第二言語学習の説明・理論から第7章の言語学習に関する通説の再考が論証されているが、参考図書と一緒に研究・分析・評価して、各々の類似点・相違点、多角的視点をまとめ、今後のやり方へと生かして行くように述べなさい。 留意点：参考図書もよく読んで、基本教材同様に重視し、置かれた立場で最適な教授法を発見、展開させて行くように望む。</p>